

編集後記

▼貴誌23号、「教育動向―県内の動き―」の中で、6/30産経新聞記事として紹介されている「郷土学校」ですが、これについてはかつて「赤旗」紙上で、「統一教会の新たな資金集めの手口」として取り上げられたものであることは、以前指摘いたしました通りです。郷土学校については「統一教会の資金集めの手段で反社会的なもの」として新潟市ボランティア・ビューローでもボランティアと認めておりません。知人の子どもが、一時、新潟市石山の郷土学校に通ったことがありました。最近になって、一冊五千円の雑誌が送られてくるようになり、家族は不安を募らせています。雑誌には一口十万円の間同会費も掲載されています。現在送られてくる雑誌代も請求されているとのこと。こと統一教会絡みだけに荒だてたくないのが本音のようです。……

▼ある読者からの手紙の要旨です。産経の記事については編集部で問題にした

のですが、新潟の郷土学校に関する記事は産経だけ、産経の評価的態度を勝手に変えることはできない、福田信之といえば読者は気づくに違いない、いずれ他紙が真実を書くだろう、そんなことで掲載したわけです。その後県内の郷土学校に関する報道が全くないので、5/14「赤旗」記事を今回掲載しました。

若月又次郎

▼新しい学習指導要領の性格と内容は、「新潟日報」がいみじくも「ゆとり、一転、愛国心、教室に統制の色濃く」（一九八九・三・一一）とタイトルして報じたように、本当に無関心ではおれない多くの問題点を抱えています。それだけに新指導要領に対する市民の関心も日々高まっており、新潟市では「市民が指導要領・教科書に発言する会」という「市民フォーラム」が既に二回のシンポジウムを行いました。本号では、新指導要領のもつ問題点を新潟の教育の現実 に即して明らかにしたいと考えました。

▼「シンポジウム「日の丸」「君が代」

の強制と親の教育要求」は、「市民フォーラム」第二回目のシンポジウムを紙面で再現したものです。新潟市に限らず県内の各地で親たちによる「指導要領学習会」が開かれ始めていますが、そうした際の参考になれば幸いです。

▼暑い夏です。今年度最後の号の編集を終えてホッとしたところです。一九九〇年度の総会は九月九日、新年度第一号（第二十七号）は一〇月末発行の予定です。またよろしくお願いします。片岡 弘

にいがたの教育情報 No. 26

1990年8月31日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所
 行人 長崎 明
 新潟市東中通1-86 山崎ビル2F
 〒951 電話(025)228-2924
 振替口座・新潟4-12332
 印刷所 (有)あかつき印刷所
 長岡市新産4-4-7

本誌内容の無断転載を禁じます。